2023年3月期 第3四半期決算説明会

2023年1月31日 株式会社エンプラス







2023年3月期 経営方針

- 2023年3月期 第3四半期 決算説明
 - ·連結損益実績
 - ·決算総括

2023年3月期 連結業績見通し

各事業の動向と事業戦略



2023年3月期 経営方針

経営方針 - 事業ポートフォリオ (中期戦略)-



Essential領域*の事業に注力

Semiconductor Life Science

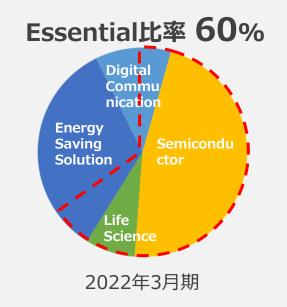
事業自体が Essential in 高成長領域

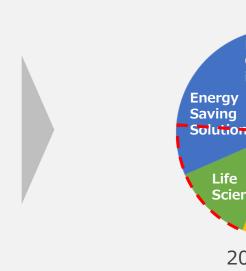
Digital Communication

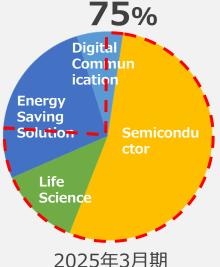
Energy Saving Solution より Essential な領域への業態転換 (例) 環境車・オプトプラニクス

※Essential領域:人と地球のQOL (クオリティ・オブ・ライフ) を高める領域

売上構成のイメージ









経営基本方針

「競争力」と「共創力」による成長の実現

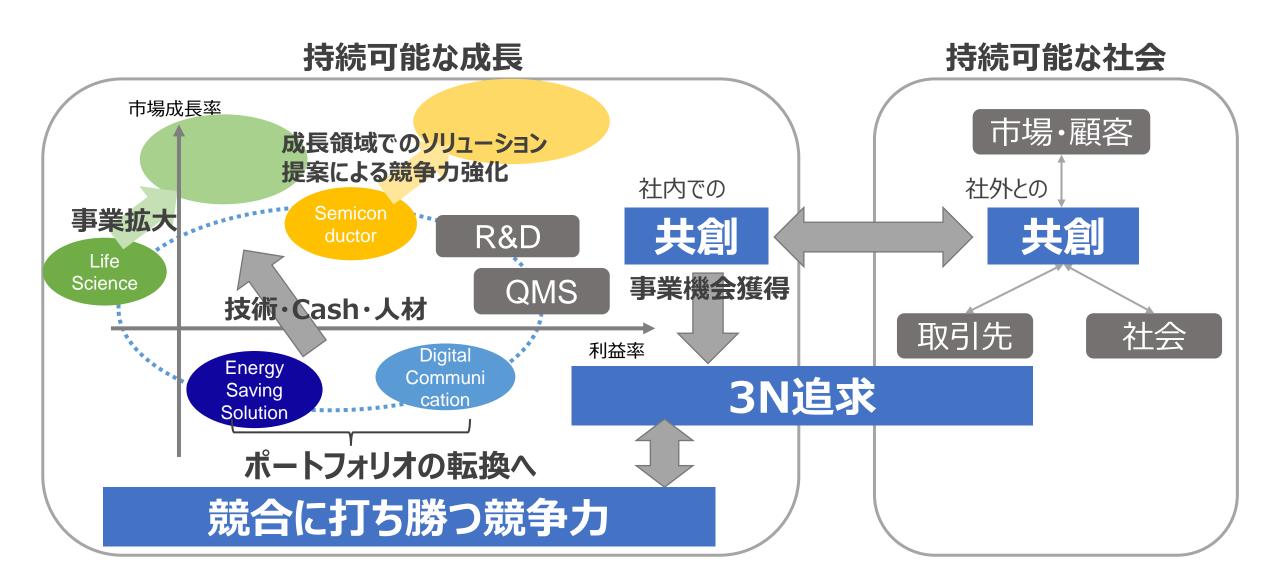
・競争力の強化

重点推進事項

- ・共創の推進
- ·3N(新技術·新規顧客·新規用途)の追求
- ·Digital Communicationの基幹事業化

経営方針 - 事業ポートフォリオ (重点推進事項)-







2023年3月期 第3四半期 決算説明

2023年3月期 第3四半期損益実績(連結)



(単位: 億円)

	2022/3期	2023/3期		(参考)
	3Q累計実績	3Q累計実績	増減	通期計画
売上高	238.7	322.7	+35.2%	430.0
売上原価率	60.3%	51.4%	-8.9 _{pt}	52.6 %
営業利益	22.1	70.6	+218.3%	84.0
経常利益	20.6	69.5	+236.1%	86.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.3	36.3	+152.7%	46.0
1株当り四半期純利益	163.42円	412.20 _円	+248.78 _円	521.61円
期中平均レート(US\$)	111 . 39 _円	135.41 _₱	+24.02 _円	(通期計画レート※) 135.73円

※通期計画レートは、下期計画レート138.00円と上期期中平均レート133.46円の平均です。

為替の影響



2023/3期 3Q累計 期中平均レート (US\$)	1ドル 135.41円
2022/3期 3Q累計 期中平均レート (US\$)	1ドル 111.39円
為替感応度(US\$) ※1円変動による影響額(年間)	売上高 約2億円 営業利益 約1.5億円
2023/3期 3Q累計 為替影響額 ※前年同期比	売上高+35.5億円、営業利益+28.5億円 (為替影響を除く:売上高287.2億円、営業利益42.1億円)
海外売上高比率	約80%

経常利益の増減分析<前3Q累計比>













(単位: 億円)

20.6

2022/3期 3Q累計 経常利益

2023/3期 3Q累計 経常利益

2023年3月期 第3四半期セグメント別実績(連結)

Enplas (単位:億円)

		2022/3期	2023/3期	
		3Q累計実績	3Q累計実績	増減
	売上高	110.5	180.9	+63.7%
Semiconductor	売上原価率	58.4 %	47.2%	-11.2 _{pt}
	営業利益	14.6	50.7	+245.6%
	売上高	18.0	25.2	+40.2%
Life Science	売上原価率	70.2 %	53.6%	-16.6 pt
	営業利益	-9.6	-2.5	-
Digital	売上高	28.0	28.1	+0.5%
Digital Communication	売上原価率	42.0%	34.7%	-7.3 pt
	営業利益	8.5	11.8	+37.6%
Engrav Coving	売上高	82.2	88.3	+7.5%
Energy Saving Solution	売上原価率	67.0 %	64.9%	-2.1 pt
Ocidion	営業利益	8.5	10.6	+25.2%

連結四半期損益実績推移



(単位: 億円)

	2022/3期		2023/3期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	77.5	90.2	101.1	109.8	111.7
売上原価率	62.0%	56.8%	53.7%	51.4%	49.4%
営業利益	5.6	13.8	19.5	23.9	27.0
経常利益	5.3	13.8	21.3	23.6	24.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5.2	10.8	15.0	2.5	18.7
1株当り四半期純利益	59.97円	123.61円	170.44円	29.45円	212.33円

連結四半期損益実績推移

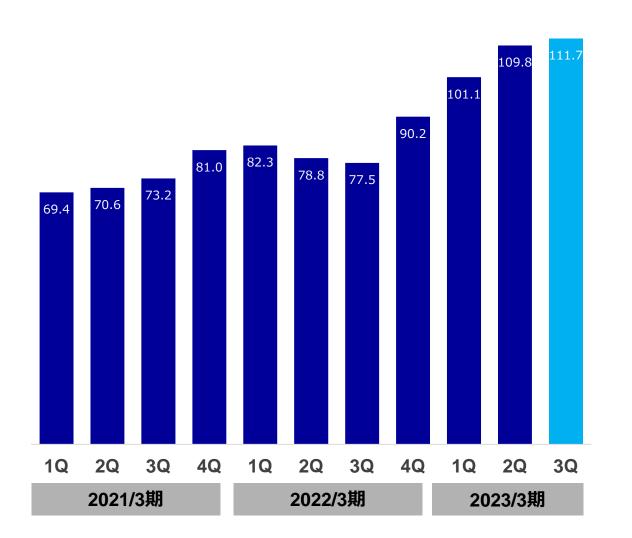


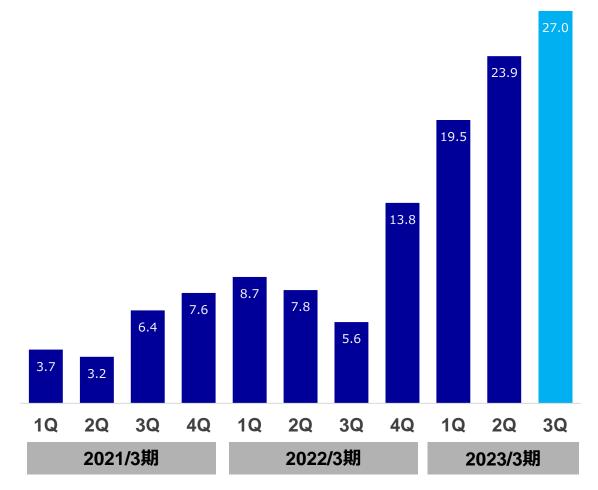
(単位: 億円)

<売上高の推移>

(単位: 億円)

<営業損益の推移>





セグメント別四半期損益実績推移(連結)

Enplas

(単位: 億円)

	_	2022/3期		2023/3期		
		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
	売上高	37.2	48.6	56.6	59.8	64.4
Semiconductor	売上原価率	59.0 %	52.1 %	49.9%	46.3%	45.5%
	営業利益	4.6	11.3	14.5	16.7	19.4
	売上高	5.9	6.7	7.9	9.5	7.8
Life Science	売上原価率	63.4%	58.4%	54.5 %	52.7 %	54.0%
	営業利益	-2.9	-2.2	-1.0	-0.5	-0.9
Digital	売上高	7.5	7.3	9.4	9.0	9.6
Digital Communication	売上原価率	46.0%	45.0%	38.6%	34.5%	31.1%
	営業利益	1.8	2.0	3.5	3.8	4.3
Energy Saving	売上高	26.8	27.4	27.2	31.3	29.7
	売上原価率	70.3%	67.8%	66.6%	65.5%	62.7%
Solution	営業利益	1.9	2.6	2.5	3.9	4.1

決算総括



第3四半期損益実績 増収増益

Semiconductor事業が牽引し、対前年同期比で増収増益
 (売上高+35.2%、営業利益+218.3%、親会社株主に帰属する四半期純利益+152.7%)

Semiconductor事業 過去最高

半導体需要の一時的な調整はあるものの、中期的には半導体需要は増加傾向の見込み

Life Science事業 過去最高

• 既存顧客からの受注が好調、今後も堅調な見込み

- 光通信関連の光学デバイスは、世界的な半導体不足による顧客の生産調整の影響が改善し、増収
- LED用拡散レンズは、液晶テレビ市場の需要減少が継続し減収

自動車の本格的な生産回復には至らなかったものの、第3四半期累計では自動車の生産回復と プリンター需要の増加により増収

決算総括



> 販売管理費

2022/3期 3Q累計	2023/3期 3Q累計	差 異
72.4	86.0	+13.6

- ▶ 労務費 +6.3億円
- ▶旅費交通費 +1.2億円
- ▶研究開発費 +4.4億円

> 営業外損益

(単位: 億円)

(単位: 億円)

2022/3期 3Q累計	2023/3期 3Q累計	差 異
-1.5	-1.1	+0.4

- ▶ 為替差益 1.4億円(2022/3期 3Q累計 為替差益 0.0億円)※当3Q(10-12月)は3.0億円の為替差損(2023/3期 2Q累計は4.4億円の為替差益)
- ▶ 持分法による投資損失 3.4億円(2022/3期 3Q累計 2.7億円)

➢ 特別損益

(単位: 億円)

2022/3期 3Q累計	2023/3期 3Q累計	差 異
1.2	-15.1	-16.3

▶投資有価証券評価損 14.3億円



2023年3月期 連結業績見通し

2023年3月期 連結業績見通し



(単位: 億円)

		(十四・18/13/
	2023/3期	2023/3期
	3Q累計実績	通期
売上高	322.7	430.0
売上原価率	51.4 %	52.6%
営業利益	70.6	84.0
経常利益	69.5	86.0
親会社株主に帰属する当期純利益	36.3	46.0
1株当り当期純利益	412.20 _円	521.61 _円
配当金	30.00 ฅ	60.00 _円
·		

2023年3月期 セグメント別売上見通し



(単位: 億円)

	2023/3期	2023/3期
	3Q累計実績	通期
Semiconductor	180.9	236.0
Life Science	25.2	35.0
Digital Communication	28.1	39.0
Energy Saving Solution	88.3	120.0

※2022年10月28日の見通しから変更しておりません。

2023年3月期 設備投資・減価償却・研究開発費(ご参考)



(単位: 億円)

	2022/3期	2023/3期	2023/3期
	通期実績	3Q累計実績	通期
設備投資	17.4	17.7	30.0
減価償却	23.1	16.5	24.0
研究開発	6.6	9.3	12.0

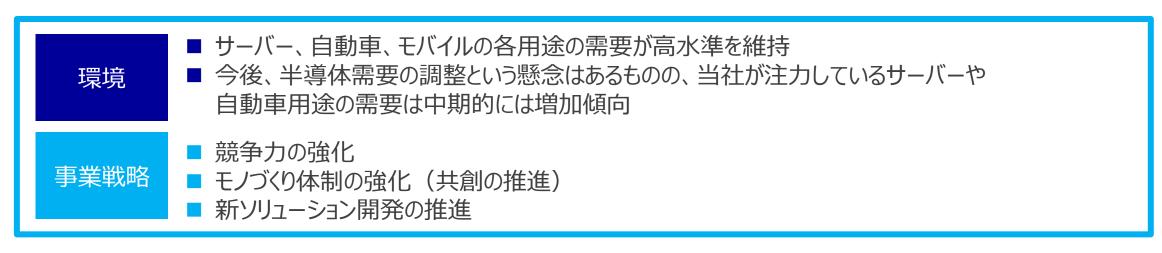
※2022年10月28日の見通しから変更しておりません。



各事業の動向と事業戦略

Semiconductor事業

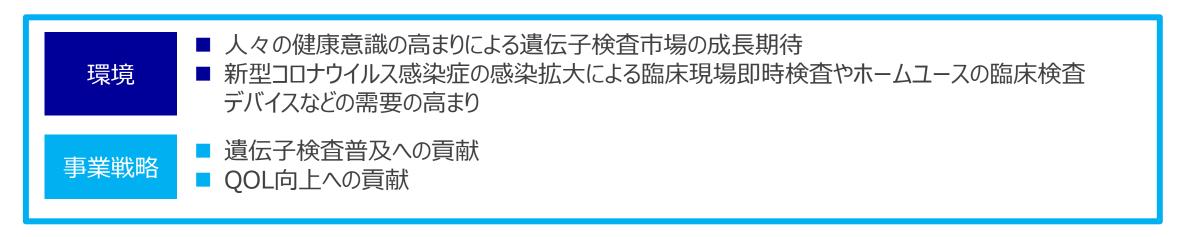


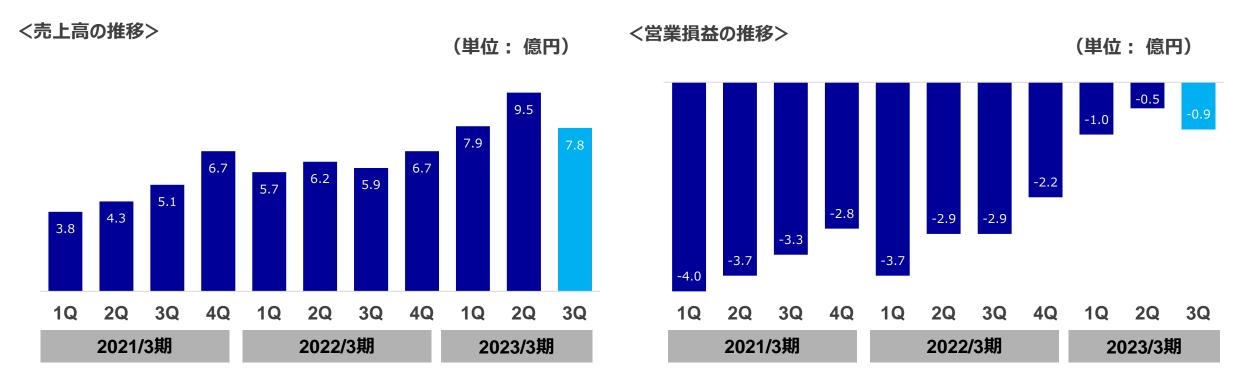




Life Science事業







Digital Communication事業

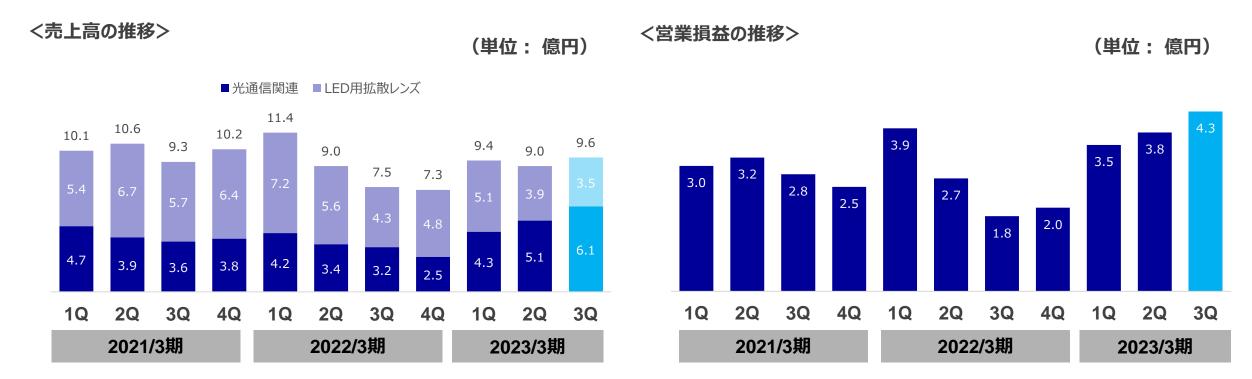


環境

- 光通信関連は、データトラフィック量の増加に伴い、データセンター需要は拡大基調
- LED用拡散レンズは、液晶テレビ市場の需要減少を受け低迷

事業戦略

- 光通信関連はハイエンド領域での新製品拡大とデータセンター以外への事業領域拡大
- LED用拡散レンズは既存領域の収益性確保と、新ソリューションの開発



Energy Saving Solution事業



(単位: 億円)

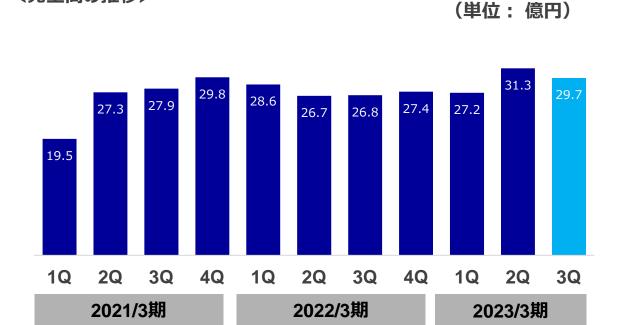


- 自動車市場は経済活動の再開やEV化への流れが加速し、需要は拡大傾向
- 自動車関連とOA関連は、世界的な半導体不足や部品の調達難は解消傾向も、 自動車は本格的な生産回復には至らず

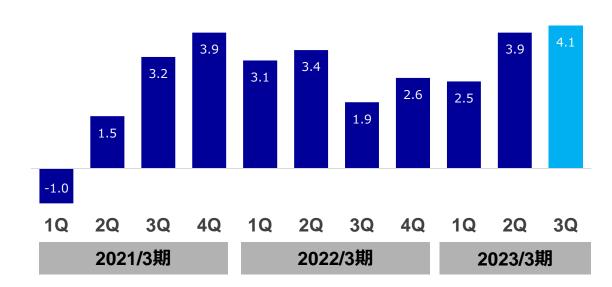
事業戦略

<売上高の推移>

- 持続可能な成長に向けた業態転換
- ギヤソリューションビジネスでの成長









株式会社エンプラス 決算説明会 https://www.enplas.co.jp/ (東証プライム 6961)

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。